

平成 22 年度全国学力・学習状況調査 新たに分かったことの例

○教科に関する調査

○ 今年度の中学校調査は、平成 19 年度小学校調査を受けた児童が調査の対象であったことから、その結果を踏まえた問題を出題したところ、次のような設問で課題が見られた。中には小学校から引き続き課題が見られるものもあり、小学校・中学校を通じた継続的な指導が必要である。

(中学校国語)

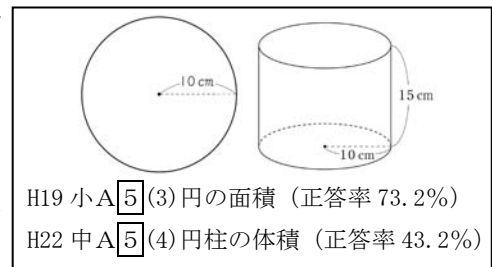
A[3]— スピーチなどにおける話し方の工夫をとらえる。(正答率 59.7%)

平成 19 年度小学校調査では、聞き手に分かりやすいスピーチのために大切なことを理解しているかどうかをみる問題 (A[7]) を出題したところ、正答率は 55.8% であった。話し方の工夫をとらえることに引き続き課題がある。

(中学校数学)

A[5](4) 円柱の体積を求める。(正答率 43.2%)

平成 19 年度小学校調査 (円の面積を求める。正答率 73.2%) においては、円の面積を直径×円周率や半径×円周率で求めている解答が 9.3% であったが、同様の誤りをしたと考えられる生徒 (解答類型 8) が今回も 11.9% おり、円柱の体積を求める場面でも、底面の円の面積を求める際に円周の長さなどと混同している生徒が同程度いると考えられる。



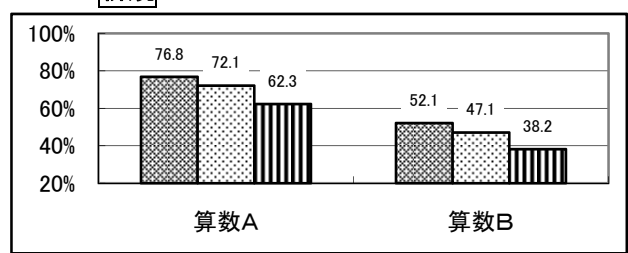
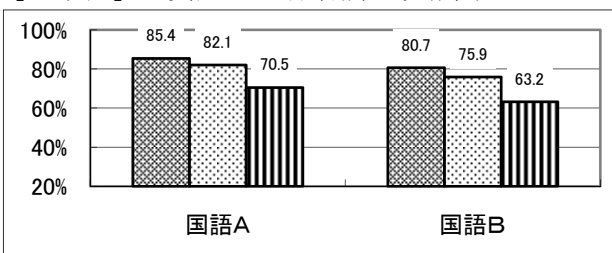
○児童生徒質問紙

◎ 3 歳から 6 歳までの間に、「幼稚園に通っていた」児童生徒、「保育所に通っていた」児童生徒、「どちらにも通っていなかった」児童生徒の順に、正答率が高い傾向が見られる。

■ 幼稚園に通っていた ■ 保育所に通っていた ■ どちらにも通っていなかった

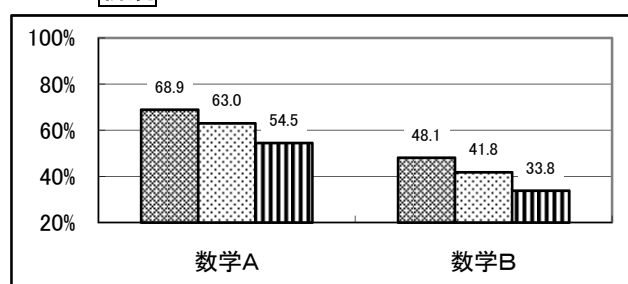
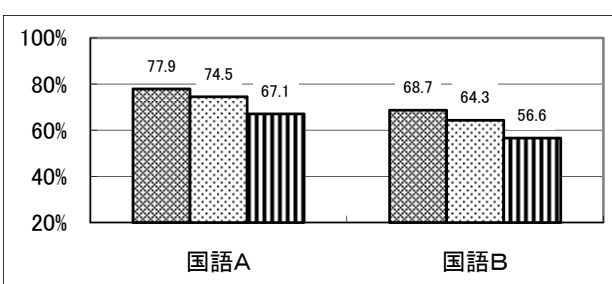
【小学校】* 質問 35：保育所や幼稚園に通っていましたか

新規



【中学校】* 質問 35：保育所や幼稚園に通っていましたか

新規

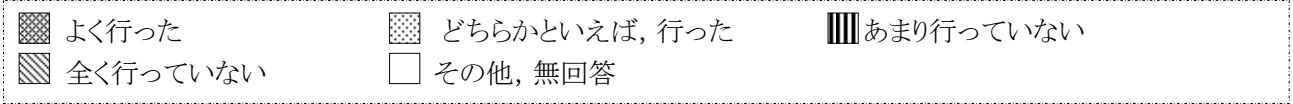


※「わからない」の選択肢は省略している。

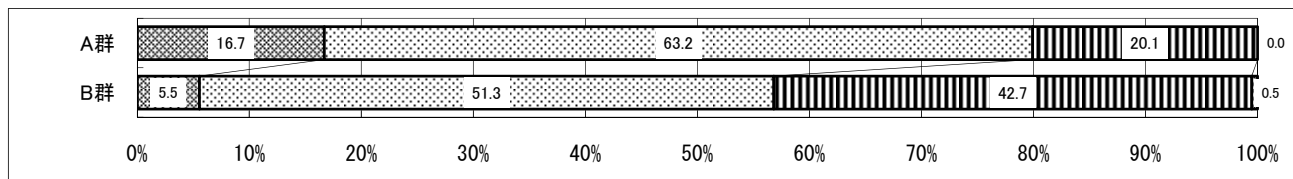
○学校質問紙

家庭学習・家庭との連携

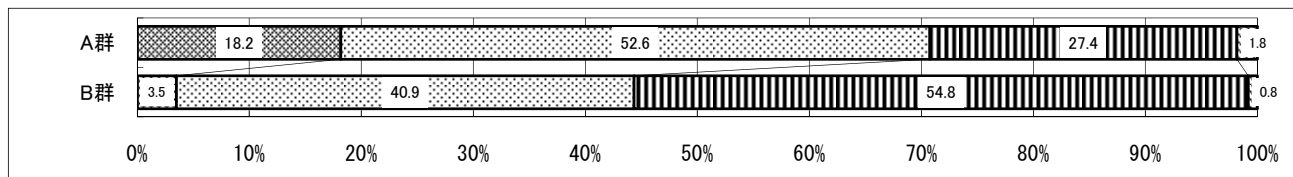
◎平均正答率が5ポイント以上全国平均を上回る学校（A群）の方が、5ポイント以上全国平均を下回る学校（B群）より、国語・算数（数学）の指導について、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を出していたと回答している割合が高い傾向が見られる。



* 質問 81(80)：家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を出していますか **新規**
【小学校】



【中学校】

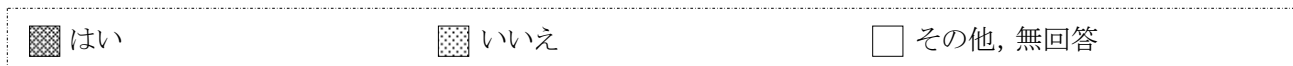


※（ ）内の質問番号は、中学校調査の質問番号である。

※A群及びB群による比較を行っているグラフについては、小学校第6学年又は中学校第3学年の学級数が2学級以上の公立学校（特別支援学校を除く）について分析している。国語A・B、算数（数学）A・Bのすべてにおいて、学校の平均正答率が、公立学校に在籍する児童生徒の正答率の全国平均を5ポイント以上上回る公立学校を「A群」、全国平均を5ポイント以上下回る公立学校を「B群」とする。

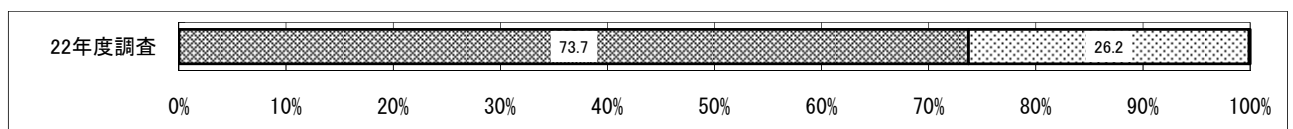
全国学力・学習状況調査の活用

◎全国学力・学習状況調査や学校評価の結果等を踏まえた学力向上の取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行った学校の割合は、小学校は約74%、中学校は約63%である。



* 質問 49：平成21年度調査や学校評価の結果等を踏まえた学力向上の取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行いましたか **新規**

【小学校】



【中学校】

